

平成30年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（中京もえぎ幼稚園）

教育目標

たくましく心豊かな幼児の育成

～主体的に環境に関わり、好奇心や探究心を育み、夢中になって遊ぶ心豊かな幼児の育成を目指して～

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>子どもたちの遊びの様子やアンケートの結果、園内研修の研究保育や事例研修などから、教育目標が概ね達成できていることが確認できた。3歳児では、幼稚園の環境に慣れ、教師との信頼関係を基盤に友達への関わりを広げながら、4歳児では友達との様々な感情体験により、多様な経験を深める中で、5歳児では、集団として成長する中で、その学年なりに主体的に環境に関わり好奇心や探究心が育まれ、夢中になって遊ぶ姿が見られた。次年度も引き続き、子どもたちに豊かな経験ができるように保護者や学校運営協議会と協力していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子どもたちの行事の時に見る様子や保護者のアンケートなどから子どもたちの成長を感じる。保護者が子どもの成長を感じていること、さらに、保護者が自身の成長を感じていることが大事である。それは、幼稚園での先生の子どもへの接し方を見て保護者が学んでいること、先生方が、幼稚園での様子や何が大事であるかということを保護者に伝えているからであろう。未就園の保護者も含めて、情報発信について協力していきたい。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月19日	学校運営協議会
最終評価	3月12日	学校運営協議会

(1) 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する **保育の改善・充実**

具体的な取組

- 「主体的に遊ぶ」「好奇心や探究心を育む」ということについてまず教員間でしっかりと話し込み、エピソードをとり共通理解する。
- 幼児が自ら周りの環境に関わり、「探究心や好奇心を育む」環境の在り方や教師の援助について検証する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 幼児の遊びのエピソードを取る。
- 環境や援助が適切であったかどうか
- 子どもの言葉や態度の変容を探る
- アンケート項目「子どもたちは幼稚園でいろいろなことに興味を持って遊んでいますか」「子どもたちは幼稚園で遊ぶことが好きですか」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「好奇心や探究心を育む」ということについて昨年度までの本園の取組の成果や課題を共通理解し、子どもたちが、遊びの中で、好奇心探究心をどのように育んでいくのか、幼稚園教育において育みたい資質・能力の視点で、子どもの心の動きをとらえエピソード研修をおこなった。また、研究発表会において公開保育をすることで、子どもたちの興味や関心を探り、共に遊びを創っていく中で、幼児理解が深まり、教師の援助や環境構成の改善につながった。それに伴い、子どもたちも自ら環境に関わり、主体的に遊ぶ姿の変容が見られた。 アンケートの結果 99パーセント以上
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一学期に研究発表会をし、エピソードをまとめることは、教師が、子どもの姿や遊びの環境などを丁寧にとらえることとなり、子どもたちが担任との関係を基に安心して遊び、夢中になって遊ぶ姿となった。 保護者のアンケートの結果について、少数でもそう思わない回答した保護者がいる。保護者の思いを聞き、担任の思いも伝えながら、幼稚園への信頼を築いていく。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して自分のしたい事を楽しんでいく中で、様々に自信をつけ、さらに興味や関心を広げ、意欲的になっている姿がみられる。一方で、したい遊びや興味はもっていても持続しなかったり、向き合うことができなかったりする姿も見られる。一人一人の実態と課題をとらえて引き続き関わっていく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊びのエピソードを取り、まとめていく。 環境や援助が適切であったかどうか、研究保育や日常の保育より検証していく。 子どもの言葉や態度の変容を探る。 アンケート項目 「子どもたちは幼稚園でいろいろなことに興味をもって遊んでいますか」 「子どもたちは幼稚園で遊ぶことが好きですか」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは、幼稚園で様々な経験をする中で自分の知識が増えることが嬉しいといった様子が見られる。家庭で、幼稚園で得てきた知識を説明している。子どもたちが様々に生活を楽しむことができるよう、運営協議会と今後も協力していく。そのためには、保護者や家庭、地域が、横のつながり、縦のつながりをもち、それぞれがコミュニケーションがとれて伝え合える仲間や関係をつくることが大事であろう。学校運営協議会もPTA活動や地域でのコミュニケーションを大事にしていく。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに幼児の遊びのエピソードを取り、子どもの姿の変容や学期、学年ごとの特徴について考察し、まとめることができた。 研究保育での研究協議や日々の保育の話合い等により、学年の発達や時期に応じて、どのように子どもが夢中になって遊ぶ環境を整え、関わっていくよいかについて理解が深まった。 子どもたち同士の関わりが広がったり深まったりし、やり取りや、思いを言葉や様々な表現で表す姿が、多くみられるようになった。 アンケート項目 「子どもたちは幼稚園で遊ぶことが好きですか」 結果
--	--

	<p>「大変そう思う」「そう思う」を合わせて100パーセント アンケート項目「子どもたちは幼稚園でいろいろなことに興味を持って遊んでいますか」結果 「大変そう思う」「そう思う」を合わせて99パーセント</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 二学期以降も継続してエピソード研修や研究保育などで研究を積み重ねることが、教師が寄り丁寧に子どもの育ちをとらえることとなり、子どもたちが主体的に環境に関わり夢中になって遊ぶ姿につながった。 友達との関わりが深まるにつれ、子どもが様々な感情体験をすることで、保護者が不安になることもある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 本園がこれまで大事にしてきた、地域の様々な人とのとの関わりが、さらなる好奇心・探究心を育んでいくことがわかった。地域の自然環境などの関わりも大事にしながら、計画的に進めていく。また、友達との関わりを大事にしながら、一人一人の実態と課題をとらえて、引き続き関わっていく。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの育ちや、アンケートの結果、教員が感じている達成感などから、概ね達成できた。 好奇心・探究心を育むことについて、本園の子どもたちにとっては大事なことであるので、継続して検証していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果より保護者が子どもの成長はもちろん、保護者自身の成長を感じておられることが大事です。先生の子どもへの関わり方を見て、保護者が学んでいる。地域としてもこれからも子どもたちが豊かな経験ができるように協力していきたい。

(2) 小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育である幼児が自ら周りの環境に関わり、夢中になって遊びこむことを通して、様々な感情を味わい、主体的に取り組む意欲や態度などを培うことが、幼児期の大きな学びであることの認識を深め、このことが小学校につないでいくことであることを意識し、「10の姿」について意識し、子どもの姿を通して共通理解していく。 保幼小連絡会や日曜参観日などの機会に一年生の姿について小学校と共有する機会をもち、一人一人の姿や接続期に大事なことについて共有していく。 こどもみらい館プロジェクトのフィールド園としての取組をすすめ、報告会に向けて様々な就学前施設と意見交流したりし、小学校以降の子どもの心の連續性について考えを深める。 小学校や小学生への親しみを感じたり憧れをもつたりできるよう高倉小学校4年生と交流する機会をもつ。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> こどもみらい館プロジェクトでの取り組みや研究成果を教職員で共通理解する。 交流の事前事後の研修会をもつ。
--	--

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもみらい館プロジェクトでは、フィールド園として、事例を提供したり、報告会でシンポジウムに参加したりなど取り組みを進めることができた。 交流について、どのようにすすめていくのか幼稚園、小学校、保育園の幼小接続主任を中心に連絡を取り合い、事前の打ち合わせをすることで、子どもの育ちなどについて共有できた。 子ども一人一人について小学校入学後の姿や小学校の担任との話をする中で、幼児期の実態やねらいや願い、家庭の様子などについて伝えることができた。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流のあり方について、どのような経験を子どもたちに願うのか、共通理解を図ったが、互いの思いや願いなど、深く話し合うことは難しかった。 幼小の接続期における互いの担任の思いを伝えることはできたが、カリキュラムにまでは話が及んでいない。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組が組織的なものになるよう今後も継続していく。 交流を行うことで、子どもたちがどのような経験をしているのか、事後の研修会で幼小の教員の互いの思いを伝え合う。 接続期のカリキュラムについて幼児期に育まれた心をどのようにつなぐのか小学校へ発信していく。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 夢中に遊ぶ中で「10の姿」をどのようにとらえていくのか、意識しながら保育したり、エピソード研修したりしていく。 後期に計画している小学校との交流について、連絡を取りながら計画的にすすめていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の学校運営協議会の理事や企画推進委員が小学校、中学校の学校運営協議会にも参加していくことでつないでいきたい。 保護者への伝達や手紙の配布やメール配信、保護者への対応などについても働き方改革にも関わってくることであり、小中学校とも共有していくことも大事である。
最終評価	
<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> エピソード研修の中で、「10の姿」をどのようにとらえていくのか、検討できた。 御所南小学校で1年生との生活科の授業で年長児との交流や高倉小学校で栄養教諭や1年生と年長児の給食参観など、実施できた。 御所南小学校の1年生の生活科や5年生の体育科の研究保育に参加し、「10の姿」などについて考えを深めることができた。 <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流についての事前の手紙のやり取りなど、継続して交流を行うことで、子どもたちにとって有意義なものとなった。 栄養教諭からの話や給食の様子は子どもたちにとって安心できる経験となった。しかし、そのねらいなどについて、小学校の担任がどのような思いをもって取り組んでいただいているのか、話し合うことは難しかった。 	

学校 関係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との交流については、互いの教育課程に位置付けられ、継続的に取組が行われているが、取組が組織的なものになるよう今後も継続していく。 ・ 「10の姿」について意識をもって保育し、理解を深めていく。
	重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との交流については継続した取り組みを進めることができているが、互いに思いを共有できる時間を少しでももつようにすることが課題である。 ・ 「10の姿」について子どもの姿からどのようにとらえるのか、研修を進める。

(3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む心と体・生活習慣

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の生活習慣について的確に把握をし、定着するように家庭とも連携を取りながら指導を重ねる。 ・ 子どもが体を動かすことの楽しさが感じられるような遊びの場を提供し、教師も共に遊ぶことでより楽しさが感じられるようにする。 ・ 園外保育を積み重ねることで、心や体を強くし、自然の中で遊ぶことの楽しさを味わえるようにする。
	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つ一つの生活習慣について確認をし、定着を図る。 ・ 子どもたちが体を動かす楽しさを感じる遊びが繰り広げられているか。 ・ 安全指導や生活習慣の指導がきちんと週案にあがる。 ・ アンケート項目「子どもたちは自分で自分のことをしようとしていますか」「子どもたちは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」

中間評価

自己 評 価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の自立については個人差が大きい。 ・ 猛暑や台風などの異常気象により戸外での遊びに制限はあったが、遊戯室を活用したり、気温が落ち着いてからは、公園にて体を動かして遊ぶことができた。 ・ 安全指導や生活習慣の指導について週案に明記されるようになってきた。 ・ アンケートの結果「大変そう思う」「そう思う」を合わせて94パーセント以上
	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣服の着脱や持ち物の始末など、必要感や周りの状況などを感じて自らしようという気持ちをもつことが難しい姿や、自分自身で出来ることに気づいておらず、やってもらうことが当たり前になってしまっている姿などが見られる。 ・ それぞれの子どもが自分なりに力を出して体を動かす心地よさを感じることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週案への記載については教員によって意識に差が見られる。 ・ 保護者は基本的生活習慣の定着について、自分でしようとする気持ちが育っていると評価している。一方で、持ち物の用意など丁寧に連絡事項等を保護者に伝えてほしいという意見もある。
--	--

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 引続き、自分で必要感を感じ身の回りの始末をすることができるよう、自分でできる気持ちよさを認めながら丁寧に関わっていく。
- ・ 引き続き、公園を活用し、体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができるようしていく。
- ・ 週案に記録する大事さを意識し、公文書として組織的な週案を共通理解していく。
- ・ 自分で自分ができるようになることの大変さと子どもにとっての成長の意味を保護者と共有していく。
- ・ 手紙や掲示板、降園時の保護者への話、メール配信など、それぞれの役割を今一度考えながら、必要に応じて活用していくと共にその意図も保護者に伝えていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・ 生活習慣の定着を図り、自信をもって生活しようとしているか。
- ・ 子どもたちが体を動かす楽しさを感じる遊びが繰り広げられているか。
- ・ 安全指導や生活習慣の指導がきちんと週案にあがる。
- ・ アンケート項目「子どもたちは自分で自分のことをしようとしていますか」
「子どもたちは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」

学校関係者評価	<h4>学校関係者による意見・支援策</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園外保育などで、体を動かして遊ぶ経験や自然体験、伝統文化体験など、様々に豊かな経験ができるように今後も支援していく。 ・ 基本的生活習慣や安全についての意識は保護者も一緒に経験していくことが大事であろう。先の生活の見通しをもつことができるように保護者に伝え、保護者自身が経験していく事が大事であろう。
---------	---

最終評価

	<h4>中間評価時に設定した各種指標結果</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な場面で、自分のことを自分でしようとする姿が見られ、自信が感じられる。一方で、でももらいうことが当たり前になり、ようとしない姿も見られる。 ・ 毎日のマラソンや、おにごっこや縄跳びなど、公園も活用しながら、体を動かす楽しさを感じる遊びを楽しんでいる。 ・ 安全指導や生活習慣の指導を丁寧に週案にあがるようになってきた。 ・ アンケート項目「子どもたちは自分で自分のことをしようとしていますか」結果 「大変そう思う」「そう思う」合わせて96パーセントになり、前期より改善が見られた。 アンケート項目「子どもたちは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」 「大変そう思う」「そう思う」合わせて100パーセント
--	---

自己評価	<h4>分析 (成果と課題)</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年長児は就学に向けて、基本的生活習慣の自立について子どもも保護者も意識の変容が見られ、自分でやろうという意欲が感じられ、自信となっている。 ・ 体を動かして遊ぶことの楽しさを感じ、その子なりに自分の力を出して遊ぶ姿が、多くみられる。
------	---

学校 関係者 評価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の保護者の意識が子どもの姿の変容につながるので、幼稚園での具体的な子どもの姿や取組の様子、援助の仕方や環境について丁寧に伝えていく。 ・ 公園や遊戯室など、さらに計画的に保育に活用していく。
	重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の生活習慣について、進学や進級を控え、自分で自分ができる喜びを感じ、やってみようとする姿が見られる。今後も引き続き家庭と協力しながら、定着するようにしていく。 ・ 体を動かして遊ぶことや園外保育などを保育の中に取り入れ、子どもたちが気持ちよさを感じることができた。さらに、公園や京都御苑など地域の自然環境について積極的に取り入れていく。

(4) 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

中間評価	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期に、周囲の大人から自分は大事にされている、愛されているという感覚を味わうことが大切である。幼稚園において教師と十分信頼関係を築き、安心して自分を出し生活を進めることができるようになってほしい。また、生活や遊びを進めていく中では、自分の気持ちを調整する心、すなわち折り合う心をもった幼児を育てていけるような関わりを大切にした保育を展開していく。
	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師との信頼関係を築くことで幼稚園が安心の基地になり、自分の思いを出しながら遊ぶ。 ・ 友達との関わりを通して、葛藤したり、喜んだり、様々に心を揺らしながら遊ぶ。 ・ 人と遊んだり生活をしたりする中で、気持ちを調整して遊ぶことの大切さに気付く。 ・ アンケート項目「子どもたちは、安心して幼稚園に通っていますか」 「自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりする楽しさを感じていますか」

中間評価

自己	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの結果「子どもたちは安心して幼稚園に通っていますか」 99パーセント ・ アンケートの結果「自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりする楽しさを感じていますか」 97パーセント ・ ほとんどの子どもたちが幼稚園に安心して登園し、教師や友達との関わりを楽しんでいる姿が見られる。トラブルが起きた時も保護者も大事な経験であるととらえ、温かく成長を見守っている。 ・ 友達との関わりを楽しみ始め、自分の思いを様々に表現する姿が見られるようになってきた。 ・ 友達との関わりで不安になったり、自分の思いを伝えることができにくかったり、不安になつてゐる姿もみられる。
	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の安心や信頼関係が子どもたちの安心につながってくる。保護者との関係を築いていく

評価	<p>事が大事である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたち自身が様々な経験をしていく事が大事であり、そのために教師や保護者が子どもの思いを大切にしながら、思いを出し合うことができる関係をつくっていくようとする。 遊びの中で様々な心を動かし、様々な思いをもつこと、それを自分なりに表すことが大事であろう。子どもたち同士が関わりを楽しむことができる保育環境を整えていく。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者も安心できるように個人懇談の機会などで、個別に思いを共有し、信頼関係を築いていく。 集団生活の中で見られる様々な経験全てが、子どもが向き合い乗り越えようとしていく大事な経験となっていく事を保護者に丁寧に伝えていく。 子どもが遊びを充実し、担任を中心に教師や友達と関わりながら、自分の思いを出し、様々な感情に向き合うことができるよう支援する。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師との信頼関係を基盤に、友達との関わりの中で自分の思いを出しながら遊ぶ。 友達との関わりを通して、互いに葛藤したり、喜んだり、様々な心を揺らしながら遊ぶ。 人と遊んだり生活をしたりする中で、相手にも気持ちがあることに気づき、気持ちを調整して遊ぶことの大切さに気付く。 アンケート項目「子どもたちは、安心して幼稚園に通っていますか」 「自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりする楽しさを感じていますか」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の規範意識について、大人自身が「これぐらいはいい」と、思う範囲が以前とはかわってきてている。親や大人が子どものために辛抱することが少なくなってきたというように思う。想像力の欠如も規範意識の低下の一因である。子育ての先輩としての立場で、運営協議会が一つの役割を担い、地域力となっていきたい。
最終評価	
自己評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート項目「子どもたちは、安心して幼稚園に通っていますか」結果 100パーセント 「自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりする楽しさを感じていますか」結果 98パーセントと、どちらも改善が見られた。 <p>保育での子どもの姿や保護者の意見の中からも子どもたちが教師との信頼関係を基盤に、友達との関わりを広げたり深めたりしながら自分の思いを出しながら遊ぶ姿が見られる。友達との関わりを通して、互いに葛藤することで、相手の思いを知ったり、気づいたり、どのようにすればいいか考えたりするようになり、気持ちを調整して遊ぶことの大切さに気付くようになった。</p> <p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者も子ども同士の葛藤や様々な経験が子どもにとって必要な経験で、子どもたち同士が解決しようとしている姿に成長を感じている。保護者と子どもの様々な経験を共有したり、教師が見通しを伝えたりすることで、保護者も自信をもって子どもの様々な姿に向き合うことができている。 子どもたち同士が集って、様々な関わり合うことができる魅力的な保育環境を整えることができているが、今後も子どもと共に環境をつくり遊びをつくっていくことが大事である。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者も安心できるように、日々のコミュニケーションを大事にし、信頼関係を築いていく。 ・ 学年を超えての共有の場について、どのような遊びを楽しんでいくのか、教員同士が共有していく。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師との信頼関係を基盤に友達へと関わりを広げ、様々な感情体験をすることで、相手の気持ちに気づき、自分の思いも出しながら、みんなと思いを合わせて遊ぶ楽しさを感じることができるようにになった。また、保護者も安心しながら、子どもたちの様々な姿を温かく見守って支えることで、子どもたちの成長につながった。 ・ 今後も保護者との連携を大事にしながら、取り組んでいく。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人懇談、学級懇談会、パパママティチャー、ほっこりやつとなど、保護者同士が交流できる場は大事であろう。未就園の保護者も含めて、幼稚園での教育や子どもの発達で大事なことなど、保護者は様々な情報を求めている。幼稚園は情報発信が弱点であるので、協力していきたい。